



成果発表する吉倉担当(上)と  
学会会場風景(下)

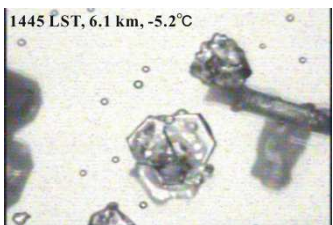
## 大気電気学会でPOTEKA成果発表！

2014年1月9日、10日に東京学芸大学で日本大気電気学会第90回研究発表会が開催され、群馬大学教育学部岩崎研究室様、防衛大学地球海洋学科小林研究室様と連名でPOTEKAプロジェクトの成果発表を行いました。

学会では、竜巻・ダウンバーストの地上稠密観測の重要性、プロジェクト概要や活用事例、8月11日に群馬県で発生した突風現象の事例解析等に関して計5件の発表があり、多くの質問、反響がありました。今回の成果は、後に大気電気学会誌にまとめられる予定です。

POTEKAの稠密地上データは幅広い分野での活用が期待でき、今回のような気象に限らず、地震・環境・雷・大気汚染などより広くPOTEKAの取り組みについてアピール、ヒアリングできる機会が必要です。明星電気は、今後もPOTEKAプロジェクトを通じて、新しい分野、ユーザに対して情報発信を続け、皆様の生活に貢献するサービス創出に繋げてまいります。

(当社営業担当:グローバル戦略グループ 前田 亮太)



顕微鏡カメラが捉えた  
雲粒子画像(上)とHYVIS(下)

## パラオ共和国で「雲粒子ゾンデ(HYVIS)」が“台風の種”となる積乱雲群の内部を観測！

明星電気製雲粒子ゾンデ(HYVIS)は、GPSラジオゾンデRS-06Gと一緒に気球に付けて飛ばし、直径数十～数百マイクロンの粒子撮影可能な顕微鏡カメラによって、雲粒子、氷晶粒子を撮影し、形状、大きさ、数量を観測できます。

名古屋大学地球水循環センター様では、台風の種となる積乱雲群内部で渦が発達する過程を明らかにするために、海洋研究開発機構による特別強化観測PALAU2013と連携して、2013年5月から7月にパラオ共和国でHYVISを用いた観測を行いました。

期間中、観測地域を通過した積乱雲群に対し、複数のHYVISを連続放球し、雲粒子の鉛直分布を連続取得することに成功しました。この結果発表が名古屋大学様からあり、これらの結果は、台風の発生に至る渦の形成メカニズム等の理解に貢献することが期待されます。

このように明星電気は、様々な場面で新しい“Sensing & Communication技術”を提供し続けてまいります。

(当社営業担当:グローバル戦略グループ 前田 亮太)



イプシロンロケット試験機打上げ  
(C) JAXA/JOE NISHIZAWA

## イプシロンロケットが「2013年日経優秀製品・サービス賞 最優秀賞 日本経済新聞賞」を受賞

宇宙航空研究開発機構(JAXA)が開発し、2013年9月に試験機の打上げに成功したイプシロンロケットは、このたび日本経済新聞社が主催する2013年日経優秀製品・サービス賞(第32回)において、以下のとおり受賞しました。

賞名:2013年日経優秀製品・サービス賞 最優秀賞 日本経済新聞賞  
受賞対象製品名:新型固体燃料ロケット「イプシロン」

なお、イプシロンの開発・製造に関わった企業として明星電気も挙げられています。明星電気はロケット搭載カメラのほか、画像圧縮伝送装置および姿勢制御装置に使用されるHGV(ホットガスバルブ)モータコントローラの開発を担当しています。当社の技術がイプシロンロケットにも生かされています。

(当社広報担当:経営企画室)

## Sensing & Communication

私たちは、独自の Sensing & Communication 技術により革新的な商品・サービスを創造し  
安全・安心な社会の発展に貢献していきます。